【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和7年2月13日(2025.2.13)

【公開番号】特開2024-44389(P2024-44389A)
【公開日】令和6年4月2日(2024.4.2)
【年通号数】公開公報(特許)2024-060
【出願番号】特願2022-149879(P2022-149879)
【国際特許分類】
H01R 13/42(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ 13/42 Ｅ

【手続補正書】
【提出日】令和7年2月4日(2025.2.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】
以下の説明において、端子１０の延在方向において端子接続部１３側を前側、被覆圧着部１１側を後側ということがある。また、カバー６０側を下側、リテーナ８０側を上側という場合がある。さらに、カバー６０に対して前側を向いた状態を想定して左右方向を参照する場合がある。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
より具体的には、ハウジング３０は、上側の段のキャビティ４４を下側から仕切る仕切板部３１を有している。本実施形態では、仕切板部３１は、下側の端子収容部と上側の端子収容部との間に位置し、下側のキャビティ３４と上側のキャビティ４４とを仕切る。仕切板部３１は、上側の段のキャビティ４４の底に位置する底板であるとも把握され得る。ハウジング３０は、仕切板部３１から上側に向けて縦壁４３ａ、４３ｂを有する。縦壁４３ａ、４３ｂは、仕切板部３１に直交しかつキャビティ４４の延在方向に沿って延びる板状部分である。縦壁４３ａ、４３ｂは、後述する係止壁部８４の突出方向にも沿っている。縦壁４３ａ、４３ｂは、ハウジング３０の両側に位置する一対の外壁４３ａを含む。一対の外壁４３ａは、ハウジング３０の左又は右の外側に露出している。また、縦壁４３ａ、４３ｂは、複数のキャビティ４４間を仕切る中間壁４３ｂを含む。一対の外壁４３ａの間に中間壁４３ｂが位置しており、一対の外壁４３ａと中間壁４３ｂとは、ハウジング３０の幅方向において間隔をあけて並列状態に並んでいる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６６】
本実施形態では、ランス８６の基端は、係止凸部８３の一側に一体的に連なっている。

このため、ランス８６がリテーナ本体８２から係止凸部８３と連ならずに突出する場合と比較して、補強された構成となる。これにより、ランス８６が壊れにくくなる。キャビティ４４の延在方向に直交する方向においてランス８６が仮装着用開口３８によって案内される構成によって、係止凸部８３が本装着用開口３６に向けて案内され、リテーナ８０の装着が円滑になされる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８８】
そこで、本実施形態のように、ランス８６をリテーナ８０に形成することで、ハウジング３０の形状を簡素化して小型化することが可能となる。また、リテーナ８０はハウジング３０と比較して簡素な形状なので、当該リテーナ８０にランス８６を形成しても、金型制約は少なく、リテーナ８０の大型化を招きにくい。このため、コネクタ２０全体として形状を簡素化し、かつ、小型化が可能となる。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９５】
このため、リテーナ８０が仮装着位置に位置する状態で、ランス８６が端子１０に仮係止できる。そして、リテーナ８０が押されて本装着位置に移動すると、ランス８６と端子１０との仮係止が解除され、係止凸部８３が端子１０に本係止する。